

内容理解(中文) Comprehension (Mid-size passages)

つぎの(1)と(2)の文章を読んで、質問に答えなさい。答えは、1・2・3・4から最もよいものを一つえらびなさい。

(1)

- 1 昔に比べると、性別を気にせずに自分の好きなことをやれるようになってきた。例えば、男が美容を気にするようになったり、これまで男の仕事だと言われていた仕事に女が就いたりすることも珍しくなくなった。

- 5 このように、男だから女だからといった性別で役割を分けるのではなく、その人らしさを認めようとする考え方が各国で広がりつつあるが、最近、日本でもその意識が急に広がってきたと感じる。しかし、中には「女らしさ」や「男らしさ」を求める人もいる。特に年齢が上がれば上がるほど、そのような考えを持つ人が多いようだ。

- 10 考え方は、生まれ育った時代の影響を受けやすく、その考えを変えるのは難しいだろう。しかし、「女だから」「男だから」と役割を押し付けてしまうのは、その人の心を傷つけたり、将来の可能性を奪ってしまったりする恐れもある。みんながそれぞれ違うということを受け入れ、一人ひとりが自信を持ってやりたいことをやれる社会になればいいと思う。

(注1) (仕事に) 就く：就職する

(注2) 役割：すべきこと、仕事

(注3) 押し付ける：無理にやらせる

1 ①その意識^{いしき}とあるが、それは何か。

- 1 男には男の仕事、女には女の仕事があるという考え方
- 2 やるべきことを性別で決めないようにしようという考え方
- 3 人の考えはそれぞれで、同じ人はいないという考え方
- 4 時代に合わせたやり方に変えていこうという考え方

2 この文章を書いた人は②「女らしさ」や「男らしさ」を求める人はどんな人に多いと言っているか。

- 1 年を取っている人
- 2 若い人
- 3 自由に生きている人
- 4 性別で悩^{なや}んでいる人

3 この文章を書いた人が言いたいことは何か。

- 1 自分が好きなことばかりするのは社会にとってよくない。
- 2 その人らしさを認め^{みと}ようとする考え方が広がるのはよくない。
- 3 性別を気にせず自分らしく生きられる社会になってほしい。
- 4 自分らしさを見つけることができれば、社会で生きやすくなる。

(2)

1 私には忘れられない食べ物があります。それは祖母の「味噌つけ餅」です。元は「じゅうね餅」という岩手県北部の伝統菓子で、餅に「じゅうね」という植物を混ぜた味噌をつけて焼くことからその名前になったそうです。しかし、私の祖母は「じゅうね」のかわりに「クルミ」という木の实を使っていたので、家族はそれを「味噌つけ餅」と呼んでいました。

5 この餅は台所のガスコンロでは作れません。炭から火を起こして作ります。子どものころ、夏休みや正月に家族や親せきが集まると、必ず作ってくれました。餅を作るのは祖母の仕事、火を起こすのは祖父の仕事で、作っている祖父母のそばでおしゃべりするのが好きでした。しかし、祖母は病気になって以来、一度もそれを作ることなく亡くなってしまいました。

それから20年。ときどき、祖母が「味噌つけ餅」を作っている写真を見ながら、子どものころを
10 思い出します。そして、もう食べられないのだと、ちょっと寂しく思うのです。

(注1) じゅうね：エゴマという植物のこと。東北地方の方言で「じゅうね」と呼ばれる。

(注2) 炭：木を焼いて黒くしたもので、料理をするときに火をつけて使うもの

1 その名前とは何か。

- 1 でんとう が し
伝統菓子
- 2 じゅう ね もち
じゅうね餅
- 3 み そ もち
味噌つけ餅
- 4 クルミ

2 そ は 祖母の「み そ もち味噌つけ餅」について合っているものはどれか。

- 1 今では岩手県いわて けんのでんとう が し伝統菓子となっている。
- 2 「じゅうね」という植物しよくぶつを使う。
- 3 台所かんたんで簡単に作ることができない。
- 4 食べる日が決まっている。

3 「私」にとって「み そ もち味噌つけ餅」はどんなものか。

- 1 でんとう が し
伝統菓子として守っていくべきもの
- 2 食べると子ども時代を思い出すもの
- 3 かぞく
家族が集まるときにだけ食べられる特別なもの
- 4 どんなに食べたくてももう食べられないもの